

日本社会福祉学会第 65 回大会秋季大会の開催にあたって



日本社会福祉学会第 65 回秋季大会
大会長 岡部 卓（首都大学東京）

このたび伝統ある日本社会福祉学会第 65 回秋季大会を、首都大学東京・南大沢キャンパスで開催させていただくことになりました。

首都大学東京でお引き受けしますのは前身である東京都立大学時に開催した 1963 年第 11 回大会以来となります。それからすでに半世紀以上を経て、今回、このような学術発表や学術交流の機会が持てますこと、大変光栄に存じます。

また大会運営のさまざまな場面で多くの皆さまの支援・協力をいただいております。ここに皆さまに感謝と御礼を申し上げますとともに多くの会員のみなさまの参加を心よりお待ち申し上げます。

さて、大会開催にあたって企画した大会テーマは、『「包摂型社会」への提言—人びとの生の剥奪と再生—』です。

社会福祉学は、社会のなかで多様な人びとがさまざまな状況に置かれていることを前提に、人びとの生きにくい状況がよりよい方向へ向かうことを目指しています。換言すれば、多様な生を尊重し認め合い、それぞれの福祉の向上に寄与する包摂型社会を目指しています。それは、生を阻む社会の暴力性（合法/非合法を問わず抑圧/搾取/排除する考えや行動）に抗していくことでもあります。

これら生を阻む社会の暴力性は、帰属するコミュニティのなかに生み出されます。それは、法の内・外を問わず親密圏であれ公共圏であれ、それぞれの場に過剰に包摂や排除/周辺化される事象にみとれます。例えば、親密圏で生起する虐待やDV、生殖管理などにみられる生の選別、公共圏で生起するパワハラ、ヘイトスピーチ、施設内の暴力や身体拘束、相談機関での不適切な対応などが、また国外の政治・経済・社会の動きと連動して現れる戦争、テロリズム、難民問題、グローバル化や市場化がもたらす格差や貧困などがその例として挙げられます。

そこで本大会テーマを受け大会校企画シンポジウムとして「社会の暴力性を問う—『包摂型社会』への提言—」を設定しています。シンポジストの皆さまには社会の暴力性を切り口に、政策、方法、活動、理論それぞれの観点から包摂型社会への提言をしていただきます。具体的には、「貧困と暴力の連鎖」、「自殺とケア、そして『構造的暴力』について」、「社会の性規範・ジェンダー規範のダブルスタンダード—アダルトビデオの中の性暴力の顕在化プロセスを例にして考える—」、「暴力との向き合い方」という多様な生を阻む社会の暴力性に関わる例を提示し包摂型社会の実現に向けた接近を試みます。

また社会福祉学は実践科学、政策科学であり、また国際的視野に立った研究が必要なことから、二つのワークショップ（若手研究者のためのワークショップ「社会福祉研究と実践の架橋—調査研究の倫理とアプローチ」、留学生と国際比較研究のためのワークショップ）を設定しています。そこで調査倫理と調査方法の検討、国際化に対応する学術交流や研究枠組み

等の検討を行います。

そして会員の学術発表として、理論・思想、歴史、制度・政策、方法・技術、児童福祉、家族福祉、障害者福祉、高齢者保健福祉、女性福祉・ジェンダー、地域福祉、国際社会福祉、社会保険、医療保健・医療福祉、司法福祉・更生保護、社会福祉教育・実習、震災・災害福祉の各分野で多くの口頭発表、ポスター発表、そして分野横断の3つの特定課題セッションがエントリーされています。

事務局を務める社会福祉学分野においては、少人数ながら社会福祉のさまざまな分野・領域で多くの学術的発信を行っています。また「子ども・若者貧困研究センター」や地域との多世代交流コミュニティ・カフェ、地域ボランティア等の養成を目指す学内ボランティアセンターの創設・運営などの研究・教育・実践に取り組んでいます。

本大会が開催される南大沢キャンパスは、東京都心あるいは横浜地域から1時間弱の郊外にあり、多摩ニュータウンの西部の緑豊かな多摩丘陵の一角に位置しています。

10月21日（土）22日（日）には、皆様と首都大学東京において有意義な議論を行えることを祈念し、スタッフ一同、心より皆様の来学をお待ちしています。